

Briefing Transcription

|| 2026年3月期 決算説明会文字起こし ||

仙波糖化工業株式会社

2916 東証スタンダード市場

[企業情報はこちら >>>](#)

2026年6月19日(金)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

■ 目次

■ 決算を受けてのフィスコアナリストコメント	01
■ 出演者	02
■ 決算説明	03

■ 決算を受けてのフィスコアナリストコメント

- ・ 同社はカラメル製品の製造を祖業とする食品素材メーカー。カラメル製品の国内シェアはトップで、同事業の売上構成比は23.1%である(2026年3月期実績、以下同じ)。高付加価値のデザート向け新製品開発と提案営業に注力しているほか、アジアを中心とする海外需要の取り込みで売上拡大を目論んでいる。売上構成比の36.8%を占める乾燥製品類事業は粉末製品と凍結乾燥製品を手掛ける。粉末製品は粉末茶や粉末調味料素材(醤油や味噌)などを販売、凍結乾燥製品は野菜ブロックや粉末山芋が主力である。乾燥製品類の売上の約8割は「B to B」である。売上構成比で18.1%を占める組立製品類事業は、主としてスープ類、ヘルスケア、スポーツ飲料、ココアなどの造粒製品と粉末ソース、粉末調味料、唐揚げ粉、みそ汁などのブレンド製品からなる。同15.4%を占める冷凍製品事業は冷凍山芋や冷凍和菓子が主力製品である。また売上高を自社商材と受託商材で分けると比較的利益率の高い自社商材が71.1%、受託商材が28.9%となっている。
- ・ 2026年3月期連結業績は、売上高が前期比3.9%増の194.23億円、営業利益が同19.4%増の9.02億円、経常利益が同6.2%増8.66億円、親会社株主に帰属する当期純利益が同73.6%増の5.54億円となった。売上高は、粉末乾燥製品や冷凍製品の自社商材が好調であったことに加え、ヘルスケア受託が復調した。利益面では下期に原材料価格の高騰が顕在化したものの、価格改定やコスト圧縮などを進めたことが奏功した。なお当期純利益の伸び率が大きいのは、前期特別損失として計上した事業整理損2.25億円が一巡したため。
- ・ 2027年3月期連結業績の会社予想は、売上高が前期比3.5%増の201.00億円、営業利益が同5.3%増の9.50億円、経常利益が同10.8%増9.60億円、親会社株主に帰属する当期純利益が同28.9%増の7.15億円を見込む。売上高は引き続き提案営業の推進と適正な価格改定を進める方針である。利益面では中東情勢の悪化で利益下押し圧力が高まっているが、原材料価格高騰への対応や経費削減により増益を見込む。前期0.64億円生じた為替差損の解消も見込んでいる。

カラメル製品は新製品開発と提案営業推進でデザート向け販売増を計画している。乾燥製品類は粉末茶の堅調な売上を見込むほか、粉末調味料の需要増加を予想する。組立製品類は、ヘルスケア商材受託加工の復調を見込むが前期並みを予想。冷凍製品は、冷凍山芋は新製品投入で伸長を見込むほか、冷凍和菓子の堅調を予想する。
- ・ 同社は企業価値向上策として、営業キャッシュフローの最大化を掲げている。具体的な方策は、(1)高騰する原材料費に対応した適正な価格転嫁(対象製品個別に対応)、(2)新規自社商材の開発推進と提案営業による拡販強化、(3)中国事業の再構築に伴う海外戦略の見直しで、ベトナム事業の黒字化をはかるなどである。

仙波糖化工業株式会社 | 2026年6月19日(金)
2916 東証スタンダード市場

■ 出演者

仙波糖化工業株式会社
代表取締役社長

小林 光夫様

■ 決算説明



仙波糖化工業 代表取締役社長 小林様

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、仙波糖化工業株式会社の小林です。本日はご多忙の折、弊社の決算説明会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。限られた時間ではありますが、2026年3月期の決算内容についてご説明します。

目次		
I	2026/3期の決算概況	P 2
II	企業価値向上に向けて	P15
III	2027/3期の業績予想	P21
	参考資料	P25

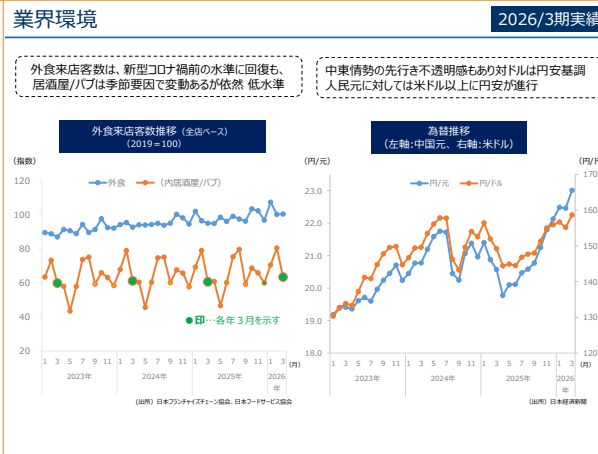
本日は、2026年3月期の決算概況、企業価値向上に向けて、最後に2027年3月期の業績予想の順にてご説明します。なお、資料最後の参考資料には、時系列の財務データなどを記載しています。

決算説明

I 2026/3期の決算概況

2

それでは、2026年3月期の決算概況についてご説明します。



3

毎回ではありますが、当社の業績に関連する業界環境として、まず外食来店客数の推移を左側に記載しています。当該グラフは、新型コロナウイルス禍からの経済の回復状況を示す指標の1つとして掲載しています。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してから、この5月でちょうど丸3年になります。コロナ後は円安が進んだこともあり、訪日客ならびにインバウンド需要が大きく増加していて、外食産業全体で見れば好調に推移していると言えます。しかしながら、居酒屋およびパブ系においては、季節的な変動はあるものの、平均すればコロナ禍前の7割程度で回復が頭打ちであると感じています。コロナ禍中の行動制限によって生まれた、いわゆる「宅飲み」など、お酒を飲む行動習慣自体が様変わりしてきたと考えます。いずれにしましても、外でお酒を飲む機会はコロナ禍前よりも格段に減ってきている印象です。

続きまして、右側のグラフは米ドルと中国元の為替推移を示したものになります。この1年を見ましても、為替が大きく変動しています。為替変動要因は日米金利差や我が国の財政政策などが関わっていますが、2026年は先行き不透明な中東情勢に絡んで、当面は円安水準で推移する見方が強まっていると感じています。

仙波糖化工業株式会社 | 2026年6月19日(金)
2916 東証スタンダード市場

決算説明

決算概要

2026/3期実績

- ✓ 売上高は、粉末乾燥製品や冷凍製品の自社商材が好調であったことに加え、ヘルスケア受託が復調し3.9%の増収（*事業継承ベースでは5.0%の増収）
- ✓ 営業利益は、下期に原材料価格の高騰が顕在化するも従前予想をクリア
価格改定やコスト圧縮などを進めたことにより、19.4%の増益

(単位：百万円、円)

	2025/3期		2026/3期			
	金額	前期比	金額	前期比	従前予想	予想比
売上高	18,701	▲2.3%	19,423	+3.9%	19,700	▲277
営業利益	755	+9.4%	902	+19.4%	900	+2
経常利益	816	+8.1%	866	+6.2%	820	+46
親会社株主に帰属する 当期純利益	319	▲35.5%	554	+73.6%	520	+34
1株純利益	28.08	-	48.74	-	45.68	+3.06
設備投資額	741	+165	427	▲314		
減価償却費	817	▲115	784	▲33		
研究開発費	300	+28	339	+38		

(注*) 中国龍和食品は、25/3期2Q以降持分法適用会社

4

それでは、2026年3月期の決算概要についてご説明します。当期の売上高は、粉末乾燥製品や冷凍製品の自社商材が好調であったことに加え、ヘルスケア関連の受託が復調し、前期比3.9%増の194億23百万円となりました。従前予想比では1.4%減となりましたが、中国龍和食品の連結除外の影響を控除した事業継承ベースでは、5.0%の増収です。

営業利益は、下期に原材料価格の高騰が顕在化するも、価格改定やコスト圧縮などを進めたことにより、前期比19.4%増、従前予想比0.2%増の9億2百万円となりました。また、経常利益は為替差損が発生したものの、前期比6.2%増の8億66百万円となり、従前予想比では5.6%増となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は前期比73.6%増の5億54百万円で、1株当たりの純利益は48円74銭です。設備投資額、減価償却費、研究開発費は表の通りになります。

製品区分別売上実績

2026/3期実績

- ✓ 自社商材は、キャラメル製品で前期実績を下回るが、粉末茶や粉末味噌・醤油、および冷凍製品が好調に推移し4.7%増収（自社商材比率は0.6ポイント増加）
- ✓ 受託商材は、龍和食品連結除外の影響あるも、ヘルスケア商材が復調し1.7%増収

(単位：百万円)

	2025/3期		2026/3期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	伸び率
売上高	18,701	100.0%	19,423	100.0%	+722	+3.9%
キャラメル製品	4,518	24.2%	4,493	23.1%	▲24	▲0.5%
乾燥製品類	6,953	37.2%	7,143	36.8%	+190	+2.7%
組立製品類	3,240	17.3%	3,523	18.1%	+283	+8.7%
冷凍製品	2,854	15.3%	2,992	15.4%	+138	+4.8%
その他	1,133	6.0%	1,269	6.6%	+135	+11.9%
自社商材	13,191	70.5%	13,816	71.1%	+624	+4.7%
受託商材	5,509	29.5%	5,607	28.9%	+98	+1.7%
海外売上高	656	3.5%	457	2.3%	▲199	▲30.4%

(為替レート)
円/元 21.02 20.82 ▲0.20 ▲0.95%
円/VND 0.006187 0.005910 ▲0.000277 ▲4.48%

5

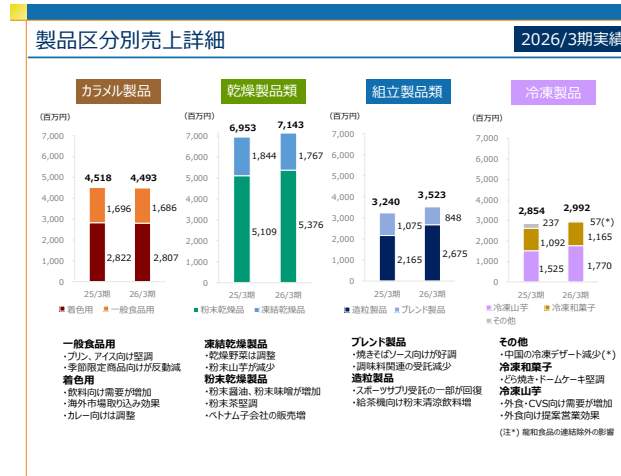
続きまして、製品区分別の売上動向を簡単にご説明します。まずキャラメル製品におきまして、季節限定デザート商品向けの反動減もあり、前期実績を下回りました。しかし、乾燥製品類の粉末茶や粉末味噌、粉末醤油、および冷凍製品が好調に推移した結果、自社商材の売上高は前期比4.7%増加しています。これにより、自社商材比率は0.6ポイントの増加となりました。

他方、受託商材につきましては、中国龍和食品の連結除外の影響があったものの、組立製品類のヘルスケア商材の一部において回復の兆しが見られたこともあり、前期比1.7%の増収となっています。

決算説明

海外売上高におきましては、中国子会社の連結除外の影響を受け、前期比で減少しました。その結果、海外売上高比率は前期比 1.2 ポイント減の 2.3% となっています。

なお、当決算期における中国元とベトナムドンの為替レート実績を表の下段に記載しています。為替相場では、前期比で見るとどちらも円高となりましたが、期初予想比では中国元が 0.12 円ほど円安となりました。



こちらのページでは、先ほどご説明しました製品区分別の売上の詳細を示しています。カラメル製品は、海外子会社で着色料の販売が増加したものの、カレー向けなどの国内市場が減少しました。また、一般食品用では季節限定デザート商品向けの反動減があり、カラメル製品全体では前期比 0.5% 減の 44 億 93 百万円となっています。

乾燥製品類は、凍結乾燥製品が減少したものの、粉末乾燥製品の粉末醤油や粉末味噌といった調味料類、および粉末茶が好調に推移したことから、乾燥製品類全体では前期比 2.7% 増の 71 億 43 百万円となりました。組立製品類は、ブレンド製品で対前期比 2 億 27 百万円減と大きく落ち込みましたが、造粒製品のスポーツサプリメント受託の一部が復調したことから、組立製品類全体では対前期比で 8.7% 増の 35 億 23 百万円となっています。

冷凍製品は、中国龍和食品の連結除外の影響でその他が大きく減少しました。しかし、冷凍山芋の新製品投入効果や、引き続き冷凍和菓子が堅調であったことからその減少分をカバーし、冷凍製品全体では対前期比で 4.8% 増の 29 億 92 百万円となっています。

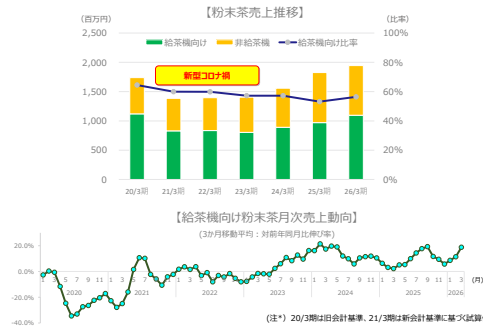
決算説明

主力商材の動向

2026/3期実績

①粉末茶

給茶機向けがコロナ禍前の水準まで回復し、売上高は過去最高を更新



7

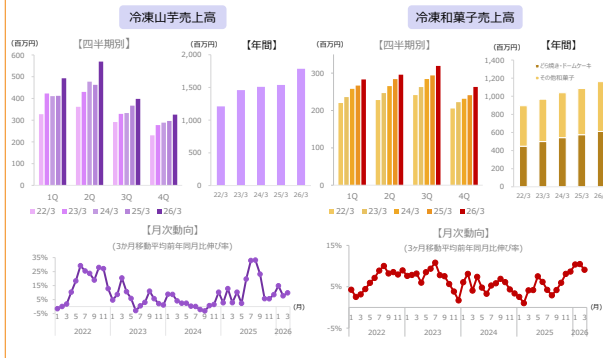
続きまして、主力製品および商材の動向についてご説明します。まずは、乾燥製品類の主力商材である粉末茶の動向についてお話しします。コロナ禍前後の変化を分かりやすくするために、やや長いスパンで実績を表示しています。グラフをご覧の通り、給茶機向け売上高はほぼコロナ禍前の水準に戻ってきました。粉末茶は2期連続で過去最高売上高を更新しています。ただ一方で、既報の通り原料茶葉価格が高騰しており、厳しい状況が続いています。現在、業績への影響度を最小限にとどめるべく対応を進めています。

主力商材の動向

2026/3期実績

②冷凍製品

✓ 冷凍山芋は、天候要因や新製品投入効果でCVS及び外食向けが伸長
✓ 冷凍和菓子も、新規顧客開拓効果もあり堅調に推移



8

続きまして、冷凍製品についてご説明します。まず、左側の冷凍山芋製品は、天候要因や新製品の投入効果もあって、特に第2四半期で売上高が大きく伸長しました。加えて、外食産業向けに新製品を投入できたことも売上高の増加に大きく寄与しています。四半期別で見ましても、当期はすべての四半期で前期実績を上回り、過去最高を記録しました。次に、右側の冷凍和菓子製品につきましても、新規顧客の開拓により堅調に推移していることが見て取れると思います。

仙波糖化工業株式会社 | 2026年6月19日(金)
2916 東証スタンダード市場

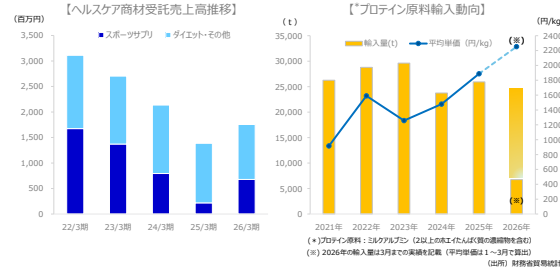
決算説明

主力商材の動向

2026/3期実績

③ヘルスケア商材受託

- ✓ スポーツサプリは回復傾向にあるも、プロテイン原料の輸入価格は高値続く
- ✓ ダイエットその他は横ばいで推移



次に、ヘルスケア商材の受託状況についてご説明します。当期はスポーツサプリメントにおいて復調が見られました。底打ちを脱した感はありますが、右側の表をご覧の通り、昨年からのプロテイン原料価格の上昇が続いています。その背景には世界的に需要が高まっていることがあり、例えばアメリカでのダイエット薬の代替需要の増加、インドや中国といった新興国でも需要が高まっていることが一因とされています。ヘルスケア商材は100%が受託加工品となりますので、売上高を当社でコントロールすることはできませんが、プロテイン原料価格や物価高による消費者心理の動向については今後も注視していく考えです。

要約損益計算書

2026/3期実績

- ✓ 原価率は、原材料等のコスト増を生産効率の追求などで0.2ポイント改善
- ✓ 運賃や研究開発費が増加するも、増収効果で販管費比率は0.4ポイント低下
- ✓ 海外子会社起因による為替差損を計上
- ✓ 中国子会社の清算益として、特別利益70百万円を計上

(単位：百万円)

	2025/3期		2026/3期		増減額	増減率		
	金額	構成比	金額	構成比			25/3	26/3
売上高	18,701	100.0%	19,423	100.0%	+722	+3.9%		
売上原価	14,543	77.8%	15,068	77.6%	+524	+3.6%		
売上総利益	4,157	22.2%	4,355	22.4%	+198	+4.8%		
販管費	3,401	18.2%	3,453	17.8%	+51	+1.5%	営業外損益	165 → 117
営業利益	755	4.0%	902	4.6%	+146	+19.4%	営業外費用	104 → 153
営業外損益	60	0.3%	▲35	▲0.2%	▲96	▲158.8%	(為替差損益)	61 → ▲64
経常利益	816	4.4%	866	4.5%	+50	+6.2%	(金融収支)	25 → 33
特別損益	▲219	▲1.2%	70	0.4%	+290	+132.3%	特別利益	23 → 70
税引前利益	596	3.2%	937	4.8%	+341	+57.2%	(子会社清算益)	— → 70
親会社株主に帰属する当期純利益	319	1.7%	554	2.9%	+235	+73.6%	特別損失	243 → —
							(事業整理損)	225 → —

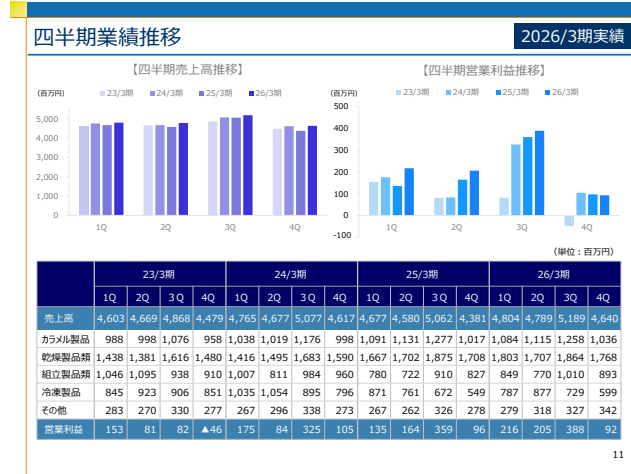
それでは、損益計算書について簡単にご説明します。まず、売上原価率は原材料などのコスト増があったものの、生産効率の追求などにより0.2ポイント改善しました。営業利益率は、運賃や研究開発費が増加しましたが、増収効果により販管費比率を0.4ポイント圧縮したことで、前年同期比0.6ポイント向上し、4.6%となりました。

営業外損益は、海外子会社で為替差損が64百万円発生したことなどによりマイナス計上となりましたが、経常利益は前年同期比6.2%増の8億66百万円となりました。

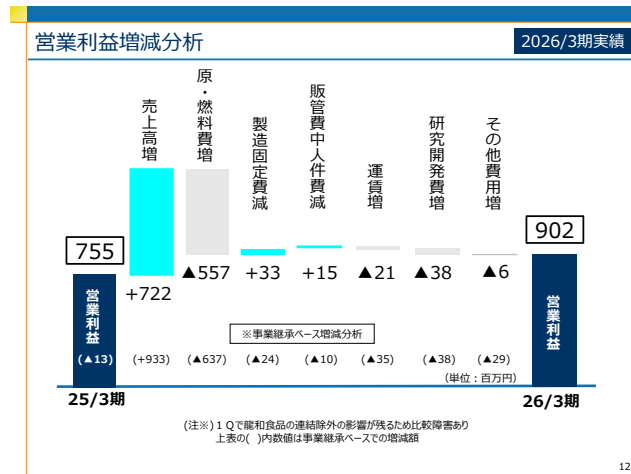
特別損益は、中国子会社である福州仙波糖化食品有限公司の清算益として70百万円を計上したことから、税引前利益は前年同期比57.2%増の9億37百万円となりました。この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期比73.6%増の5億54百万円となりました。

仙波糖化工業株式会社 | 2026年6月19日(金)
2916 東証スタンダード市場

決算説明



こちらのページですが、上段の表は過去4年間の四半期ごとの業績推移です。下段は同じく四半期ごとの製品区別の売上高推移となります。後ほどご覧いただければと思います。



こちらの表は、営業利益の増減分析を示しています。前期2025年3月期の営業利益は7億55百万円、2026年3月期の営業利益は9億2百万円であり、1億46百万円増加しました。項目別の利益増減要因は、対前期比で売上高が7億22百万円の増加、原料および燃料費が5億57百万円の増加、製造固定費が33百万円の減少、販管費のうち人件費が15百万円の減少、運賃が21百万円の増加、研究開発費が38百万円の増加、その他費用が6百万円の増加となっています。

ただし、第1四半期で中国龍和食品の連結除外の影響が残るため、事業継承ベースでの増減額を下段の括弧内に記載しています。事業継承ベースで見ますと、営業利益の増加要因となっていた製造固定費と販管費内の人件費が利益減少要因に転じます。そのため、当期営業利益の増加要因は増収効果によるところが大きいです。なお、当期における値上げ効果は売上高の1%程度でしたので、販売数量の増加が増収に大きく寄与しました。

仙波糖化工業株式会社 | 2026年6月19日(金)
2916 東証スタンダード市場

決算説明

要約貸借対照表

2026/3期末実績

(単位：百万円)

	2025/3末	2026/3末	増減額		
流動資産	11,173	11,803	+629		
現金及び預金	3,081	3,378	+296		
受取手形及び売掛金*	4,157	4,245	+87		
棚卸資産	3,779	4,052	+272	棚卸資産	+272 百万円
固定資産	9,486	9,640	+153	-商品及び製品	+245 百万円
有形固定資産	5,069	4,764	▲305	-仕掛品	▲83 百万円
無形固定資産	550	449	▲101	-原材料及び貯蔵品	+110 百万円
投資その他資産	3,866	4,426	+560		
資産合計	20,660	21,444	+783		
				※電子記録債権を含む	
流動負債	6,682	6,657	▲24		
支払手形及び買掛金*	2,204	2,304	+99	有利子負債	▲297 百万円
短期借入金	2,898	2,823	▲74	-短期借入金	▲74 百万円
固定負債	2,120	2,020	▲100	-長期借入金	▲222 百万円
長期借入金	572	350	▲222		
負債合計	8,802	8,678	▲124		
純資産合計	11,858	12,766	+908	⇒自己資本比率	59.5%
					(+2.2ポイント)
				※電子記録債権を含む	

13

続きまして、バランスシートについてご説明します。当期末における流動資産の残高は、前期末比6億29百万円増加し118億3百万円となりました。固定資産は、前期末比1億53百万円増加し96億40百万円です。これらに伴い、当期末における総資産は7億83百万円増加し214億44百万円となりました。流動負債は前期末比24百万円減少し66億57百万円、固定負債は前期末比1億円減少し20億20百万円となっています。当期末の負債合計は、前期末比1億24百万円減少し、86億78百万円となりました。純資産については9億8百万円増加し、127億66百万円となっています。

要約キャッシュ・フロー計算書

2026/3期末実績

(単位：百万円)

	2025/3期	2026/3期
営業キャッシュ・フロー	1,010	1,227
税金等調整前当期純利益	596	937
減価償却費	817	784
売上債権の増減額 (▲は増加)	420	▲92
棚卸資産の増減額 (▲は増加)	▲325	▲273
仕入債務の増減額 (▲は減少)	▲271	102
法人税等の支払額	▲308	▲286
投資キャッシュ・フロー	▲1,411	▲423
有形固定資産の取得による支出	▲463	▲417
財務キャッシュ・フロー	▲63	▲512
有利子負債の純増減額	151	▲297
配当金の支払額	▲170	▲171
現金及び現金同等物 期中増減額	▲417	296
現金及び現金同等物 期末残高	3,016	3,313

14

次のページですが、当期における各キャッシュフローの状況についてです。まず、営業活動によるキャッシュフローは12億27百万円の獲得となりました。これは、税金等調整前当期純利益9億37百万円、減価償却費7億84百万円、売上債権が92百万円増加、棚卸資産が2億73百万円増加、仕入債務が1億2百万円増加、法人税等の支払額2億86百万円などによるものです。

投資活動によるキャッシュフローは、4億23百万円の使用となりました。こちらは、有形固定資産の取得による支出4億17百万円などによるものとなります。財務活動によるキャッシュフローは、5億12百万円の使用となりました。これは主に、有利子負債の返済2億97百万円、配当金の支払額1億71百万円などによるものです。

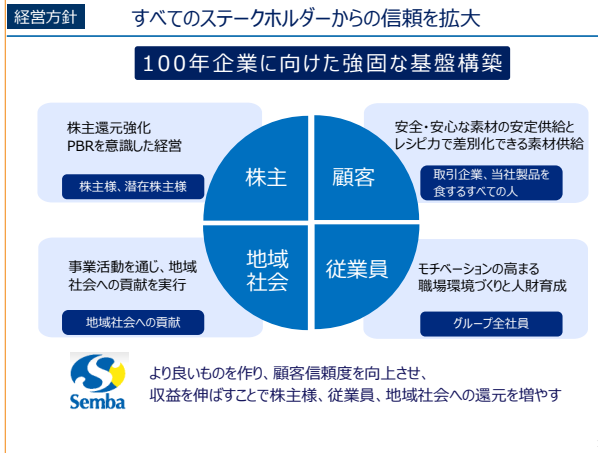
決算説明

これらの結果、現金および現金同等物の期末残高は、前期末比2億96百万円増加し、33億13百万円となりました。以上が前期の結果となります。

II 企業価値向上に向けて

15

続きまして、ここからは企業価値向上に向けた当社の取り組みについてご説明します。

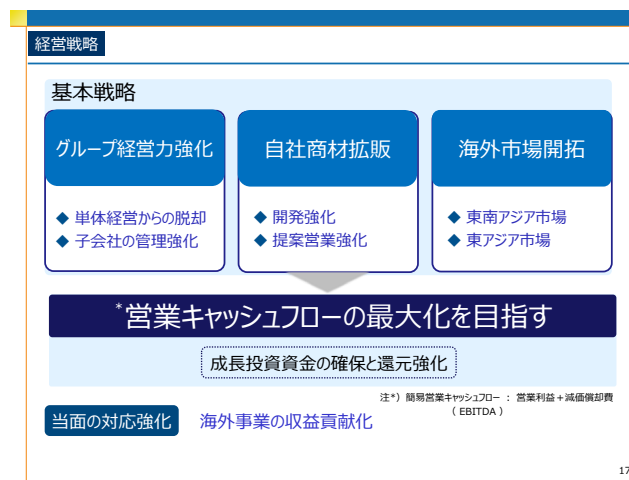


当社は、すべてのステークホルダーからの信頼を拡大し、100年企業に向けた強固な基盤構築を経営方針として掲げています。株主、お客様、従業員、地域社会のすべてのステークホルダーからの信頼を得ることが、健全な企業成長の基本になると考えているためです。株主様ならびに潜在株主様から信頼を得るには、業績を最大化させ、還元を強化させることであると思っています。また、投資家の皆様には、PBRを意識した経営を念頭に置いたIR活動を通して、当社への理解度を深めてもらうことが重要であると認識しています。

仙波糖化工業株式会社 | 2026年6月19日(金)
2916 東証スタンダード市場

決算説明

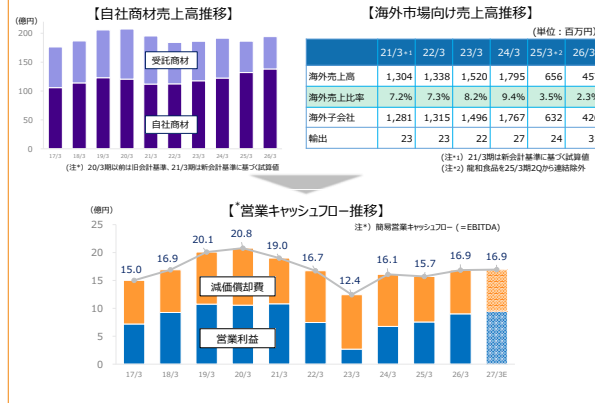
取引企業様ならびに当社製品を食するすべての方々、消費者の皆様に対しましては、安全、安心な素材の安定供給と、レシピ力で差別化できる素材供給によって信頼を勝ち得ていきたいと考えております。グループの全従業員に対しては、モチベーションの高まる職場環境を提供することはもちろんですが、従業員は当社の貴重な財産ですので、人材への投資や育成を強化していきます。地域社会に対しては、事業活動を通じた地域社会への貢献、そして社員1人1人がいつも地域社会への貢献を考えているような会社にしていきたいと考えております。100年企業に向けた基盤構築とは、より良いものを作り、顧客信頼を向上させ、収益を伸ばすことです。言い換えれば、当社ブランド力を向上させることで、株主様、従業員、地域社会への還元を増やせる会社にしていくことであると考えています。



当社の基本戦略は、グループ経営力強化、自社商材拡販、海外市場開拓の3本柱です。この3本柱を着実に遂行していくことで収益を拡大していきます。具体的には、営業利益と減価償却費を合わせた営業キャッシュフローを最大化させる方針です。これにより得られたキャッシュフローを将来の成長投資の資金として確保すること、そして還元強化のための資金とすることを目指しています。当面の対応強化は海外事業の収益貢献化であり、早期実現に向けて取り組んでいます。

決算説明

基本戦略の進捗状況 自社商材拡販で営業キャッシュフロー改善



こちらのページでは、基本戦略の進捗状況に関してご説明します。自社商材の拡販状況につきましては、左上のグラフをご覧ください。こちらは自社商材の売上高推移です。2022年3月期までは、自社商材の売上高比率はおよそ6割前後で推移してきました。約4割が受託商材でしたので、その動向が当社業績を左右する要因にもなっていました。2023年3月期から徐々に自社商材比率が高まり、2025年3月期には7割を超えるようになってきています。引き続き、自社商材の開発ならびに拡販を強化していく方針です。

右上のグラフは海外市場向け売上高推移となります。2025年3月期に中国龍和食品を連結除外したことに伴い、海外売上高は大きく減少しました。とはいえ、海外戦略は当社にとって重要なテーマです。センバベトナムを海外市場向けの主管工場と位置づけ、東南アジアや東アジアの顧客開拓を加速させ、海外売上高の拡大に向けて全力で取り組んでまいります。

営業キャッシュフローの推移は下段の表の通りです。ロシアによるウクライナ侵攻以降の世界情勢の変化、とりわけ円安進行と燃料・原料高の影響で利益を大きく押し下げた2023年3月期を底として、営業キャッシュフローは改善基調で推移しています。今後はさらに営業利益を高めていくことで、営業キャッシュフローの拡大を目指します。

決算説明

重点施策の進捗状況	前期の状況
前期の重点施策	
① 高騰する原材料費に対応した適正な価格転嫁 (対象製品個別に対応)	<p>年間を通じた冷凍山芋製品の原料価格の高止まり、下期は粉末茶原料茶葉が急騰</p> <p>→ 適正な価格改定も含め原価率圧縮に向けた対応を順次進行中</p>
② 新規自社商材の開発推進と提案営業による拡販強化	<p>→ 通期の新規商材上市数は57品であり前期比減少も、売上高貢献度は前年同等</p> <p>→ 各種展示会出展を最大限活用し、レシピ提案等を積極的に進めた結果、新規採用件数が増加</p>
③ 中国事業の再構築に伴う海外戦略の見直しで、ベトナム事業の黒字化	<p>中国事業 → 製造子会社の福州仙波*の清算を決定し、上海に貿易販売子会社を新設 <small>福州仙波*：福州仙波糖化食品有限公司</small></p> <p>↕</p> <p>ベトナム事業との連携でシナジー強化 ⇒ 海外事業の収益改善に向け取り組み中</p> <p>ベトナム事業 → 生産設備を増強し、海外事業の生産拠点としての生産基盤を強化 (STVC*に、2,280千USD(約3億5千万円)の増資を10月に実行)</p> <p><small>STVC*：SEMBA TOHKA VIETNAM COMPANY LIMITED</small></p>

こちらのページは前期の状況となります。前期は重点施策を3つ挙げました。その取り組みについてご説明します。

まず1つ目は、高騰する原材料費に対応した適正な価格転嫁を対象製品個別に進めていくことです。2025年3月期で2期にわたる値上げ計画はほぼ一巡しましたが、まだまだ物価高が続くことを想定していました。近年は気候変動などに起因した国内の天産物原料の急激な価格変動が顕著となっています。当期は年間を通じた冷凍山芋製品の原料価格も高止まりし、下期は粉末茶の原料茶葉が急騰しました。高騰する原料価格に対してしっかりと対処していく考えであり、値上げ対応だけでなく、生産性改善なども含めた企業内努力によるコスト低減策も進めています。

2つ目の、新規自社商材の開発推進と提案営業による拡販強化についてご説明します。通期の新規商材上市数は57品であり、前期比で減少しましたが、売上高への貢献度は前年同等となっています。継続した自社商材の開発は、企業の成長には必要不可欠です。1つの新製品の投入効果が大きいに越したことはありませんが、最初は売上貢献度が小さくても、自社製品を育てていくこと、そして引き出しを多くしていくこともより重要なことであると考えています。また、提案営業を加速させるため、各種展示会を最大限に活用しています。新規顧客の開拓ならびに、自社製品の新たな可能性を再発掘できるよう取り組んでいます。

3つ目は、海外戦略の見直しによってベトナム事業の収益を最大化させることです。そのためには、中国の新設子会社とのシナジーを高めていくことが肝要であると考えています。昨年10月にセンバベトナムに日本円で約3億5000万円の増資を実行しました。生産基盤をしっかりと整えつつ収益力を強化していくことで、黒字転換を目指します。当期は黒字転換を達成することができませんでしたが、引き続き全力で取り組んでまいります。

仙波糖化工業株式会社 | 2026年6月19日(金)
2916 東証スタンダード市場

決算説明

海外事業 前期の実績

海外事業再構築も、ベトナム事業の黒字転換達成できず

中国事業

- ・福州仙波を清算・解散し、5月に販売子会社:上海永仙研食品有限公司を設立
- ・当面は福州仙波既存取引先との関係性強化を重点課題とする

ベトナム事業

- ・増資により生産設備を増強し、海外事業の生産拠点としての生産基盤を強化
- ・中国子会社との連携ならびに海外輸出増で営業利益マイナスを圧縮

【海外事業収益】 (単位:百万円)

	24/3期	25/3期	26/3期		27/3期
			実績	予想	
中国事業					
売上高	(※1) 2,628	131	79	128	64
営業利益	10	▲33	▲14	▲19	0
ベトナム事業					
売上高(※2)	256	289	346	563	566
営業利益	▲50	▲79	▲37	35	67
【角単位】					
(円/元)	19.82	21.02	20.82	20.70	22.60
(円/VND)	0.006022	0.006187	0.005910	0.006038	0.005765

【ベトナム国外輸出状況】 (現地通貨出荷金額ベース)

【25/3期実績】 海外輸出比率 16%

【26/3期実績】 海外輸出比率 28%

前期比2.3倍、当初計画比1.5倍

(※1) 龍和食品の実績を含む (25/3期1Qに連結除外)
(※2) 連結グループ内取引分は、相殺消去につき売上高実績に含めず

最後に、海外事業の前期実績についてご説明します。中国事業は、先ほども少しご説明しました通り、福州仙波糖化食品有限公司を清算し、上海に販売子会社である上海永仙研食品有限公司を昨年5月に設立しました。まだ立ち上げたばかりということもありますので、設立後は適正価格化への交渉などを進めつつ、福州仙波糖化食品の既存のお取引先様との関係性維持ならびに強化を図るための営業活動を行っています。なお、前期実績は売上高79百万円、営業利益はマイナス14百万円であり、売上および利益の両面でさらなる努力が必要と認識しています。ベトナム事業に関しましては、前期比で増収増益となりましたが、営業利益はまだマイナスであり、黒字転換を達成できませんでした。しかしながら、増資による設備投資を進めて生産基盤の強化を図ることで、生産性を向上させ、黒字化に向けた施策を着実に実行していく考えです。

ご参考までに、右下の円グラフはベトナム国外への輸出状況となります。輸出金額は現地通貨ベースで前期比2.3倍となり、輸出比率も前期の16%から28%に増加しました。中国事業とベトナム事業のシナジー強化で、海外事業全体の収益改善に向け取り組んでまいります。

Ⅲ 2027/3期の業績予想

2027年3月期の業績予想についてご説明します。

決算説明

製品区分別売上高予想

【2027/3期予想】

中東情勢の影響で原材料・燃料費高や包装資材調達不安などの懸念要因を織り込む

- ✓カaramel製品は、新製品開発と提案営業推進でデザート向け販売増を計画
- ✓乾燥製品類は、粉末茶が堅調、粉末調味料の需要増加を見込む
- ✓組立製品類は、ヘルスケア商材受託加工が復調も前期並みを予想
- ✓冷凍製品は、冷凍山芋は新製品投入で伸長を見込む、冷凍和菓子は堅調

(単位：百万円)

	2026/3期			2027/3期予想			
	上期	下期	通期	上期(予)	下期(予)	通期(予)	伸び率
売上高	9,594	9,829	19,423	9,700	10,400	20,100	+3.5%
カaramel製品	2,199	2,294	4,493	2,150	2,450	4,600	+2.4%
乾燥製品類	3,511	3,632	7,143	3,500	3,850	7,350	+2.9%
組立製品類	1,619	1,903	3,523	1,600	1,950	3,550	+0.8%
冷凍製品	1,664	1,328	2,992	1,750	1,450	3,200	+6.9%
その他	598	670	1,269	700	700	1,400	+10.3%

22

現在、中東情勢の影響などが無視できないほど高まってきており、あらゆる方面で影響が出始めています。食品業界でも、ナフサの供給不安定化によって、包装資材価格の上昇に加え、供給難が顕在化してきています。特にカaramel製品においては、取引先様側でのプリンなどデザート用容器の調達懸念があります。また、カaramel色素は加工食品に広く使われているため、同様に取引先様側での包装資材調達状況に左右される可能性も否定できないとみています。

そのため、今期2027年3月期予想は、原材料や燃料費の高騰だけでなく、包装資材不足による販売数量減少もある程度想定せざるを得ない状況にあると考えています。非常に厳しい状況ではありますが、2027年3月期の製品区分別売上高予想についてご説明します。カaramel製品は、新製品開発と提案営業推進でデザート向け販売増を計画しており、上期21億50百万円、下期24億50百万円、通期では前期比2.4%増の46億円を見込んでいます。乾燥製品類は、粉末茶が堅調、粉末調味料の需要増加を見込み、上期35億円、下期38億50百万円、通期では前期比2.9%増の73億50百万円を計画しています。組立製品類は、ヘルスケア商材受託加工が復調も前期並みを予想し、上期16億円、下期19億50百万円、通期では前期比0.8%増の35億50百万円を計画。冷凍製品は、冷凍山芋の新製品投入効果や、冷凍和菓子が堅調に推移すると予想し、上期17億50百万円、下期14億50百万円、通期では前期比6.9%増の32億円を見込んでいます。その他につきましては、上期7億円、下期7億円、通期では前期比10.3%増の14億円を予想しています。以上により、今期2027年3月期の売上高は、上期97億円、下期104億円、通期では前期比3.5%増の201億円を計画しています。

仙波糖化工業株式会社 | 2026年6月19日(金)
2916 東証スタンダード市場

決算説明

業績予想

【2027/3期予想】

- ✓売上高は、提案営業の推進と適正な価格改定を進め3.5%増収を計画
- ✓営業利益は、中東情勢の悪化で利益下押し圧力が高まっているが、原材料価格高騰への対応や経費削減等を全社一丸で取り組み、5.3%増益を見込む
- ✓経常利益は、為替差損の解消を見込み10.8%の増益を予想

(単位：百万円、円)

	2026/3期			2027/3期予想			伸び率
	上期	下期	通期	上期(予)	下期(予)	通期(予)	
売上高	9,594	9,829	19,423	9,700	10,400	20,100	+3.5%
営業利益	421	481	902	400	550	950	+5.3%
経常利益	272	593	866	400	560	960	+10.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	164	390	554	270	445	715	+28.9%
1株純利益	14.45	34.29	48.74	23.72	39.05	62.77	-
設備投資額			427			873	
減価償却費			784			743	
研究開発費			339			322	

(為替レート前提) 26/3期：20.82円/元、149.71円/¥、27/3期(予)：22.6円/元、157円/¥

23

2027年3月期の業績予想についてです。売上高は、先ほど説明した通り、通期で201億円を計画し、前期比3.5%の増収を計画しています。

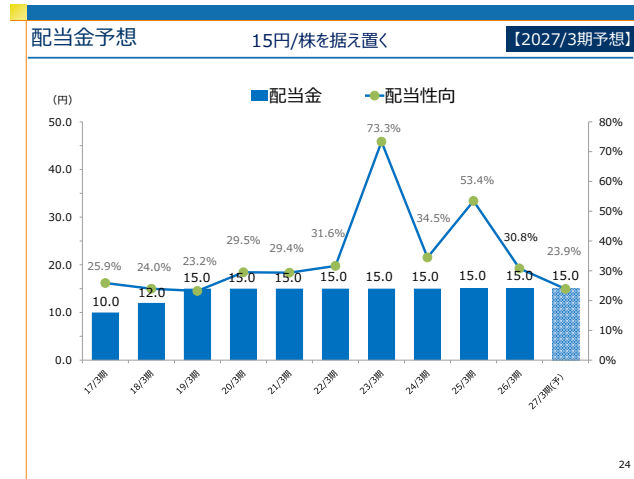
営業利益につきましては、中東情勢の悪化による利益の下押し圧力が高まっていますが、原材料価格高騰への対応や経費削減などを全社一丸で取り組み、上期4億円、下期5億50百万円、通期では前期比5.3%増の9億50百万円を予想しています。

経常利益は、海外子会社の為替差損の解消を見込み、上期4億円、下期5億60百万円、通期では前期比10.8%増の9億60百万円を見込んでいます。親会社株主に帰属する当期純利益は、上期2億70百万円、下期4億45百万円、通期では28.9%増の7億15百万円となる見通しです。その結果、1株当たり純利益は通期で62円77銭を見込んでいます。設備投資額、減価償却費、研究開発費はご覧の通りです。なお、今期の為替レートは、中国元が22.6円、米国ドルは157円を想定しています。

以上、今期の業績予想を説明しましたが、中東情勢に伴うエネルギー危機は、単なる価格上昇という問題ではなく、供給不安というリスクもあります。原油は燃料としてだけでなく、包装資材なども含めた生活のあらゆる物品に波及しているため、企業の生産活動への影響、そして物価上昇に基づく消費者心理の冷え込みが企業業績に直結してまいります。今後の原油動向や経済状況を踏まえ、業績見通しに修正が生じる場合は速やかに開示する考えです。

仙波糖化工業株式会社 | 2026年6月19日(金)
2916 東証スタンダード市場

決算説明



最後になりますが、配当金の予想についてです。2027年3月期の配当予想に関しましては、1株当たり15円の据え置きとしています。15円配当時の配当性向は23.9%です。株主還元強化は経営の重点項目と認識していますが、100年企業へ向けての基盤構築のため、ここ数年は優先的に投資へ資金を回していきたいと考えています。

次のページからは、参考資料として製品区分別の事業概要や財務データを掲載していますので、後ほどご覧いただければ幸いです。

ご清聴、大変ありがとうございました。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかなを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp